



2018.02.21 News シアトルの有力企業群アマゾン、スターバックスを見学

ワシントン州シアトル日米協会のオールソン明子氏（プログラム&オペレーション ディレクター）に案内いただき、在シアトル有力 2 企業を訪問し見学した。

アマゾン本社見学

9:50 アマゾン本社ビル受付

10:00 アマゾンと AWS アマゾン・ウェブサービス
両社の概要と企業文化の紹介

10:45 オフィスツアーと Amazon Go ストア

AWS エグゼクティブ・ブリーフィング・センターの浜中真介さんと AWS 事業開発本部の中村武由さんにご案内いただいた。

巨大企業だが、整然とした秩序よりも、社員の創造性を引き出すことを重視している。社内各所にフリースペースが用意されている。



いつでも自由に一人で、あるいは仲間と共用できる。エレベーターの壁はホワイト・ボードになっている。エレベーターの中でも議論しろ、という趣向。

開店したばかりの AMAZON GO の店舗を見学した。登録した ID カードの保有者となら複数の人が入店できる。店舗内の商品はそのまま持ち帰り、代金は ID カードに賦課。監視カメラが人物の特定と商品を記憶しチャージするところがみそ。

第二本社構想も公表され、全米のどこに決まるのか、両本社の関係はどうなるのか、会議はどうするのか、おひぎ元でも持ち切りだ。アマゾンは長期経営企業ではない。超長期経営企業だとベゾス氏は語っていると浜中さんの説明にある。

ジェフリー・ベゾス氏は、宇宙本社とか、まったく違うことを考えているのだろう。

午後はスターバックス本社を訪問

ご案内いただいたのは、中国アジア太平洋事業開発部門の Ken Katsumi Barron さん（プロダクト・マネージャ）。母方が日系、日本に在住した期間もながく、パーフェクトな日本語。VIP の通訳経験も豊富とか。見学で印象的だったことは、社員に対して経営者が、企業文化を理解し大切にしよう、あらゆる機会をとらえて、くり返していること。

全世界のスターバックス店は、たんに飲み物の提供をするというより「スターバックスで過ごす」という文化を提供することに価値観をもとめている。

飲みモノから過ごすコトへ。1971 年創業のこの会社は



「モノからコトへ」シフトする先駆け企業といえる。企業文化の重視という経営方針が、この価値観を生み出す源泉になっている興味深い訪問であった。

今回の訪問で気づいた両社の共通点は、いかに社員を大切にしているか、それをさまざまな方法、形で社員に伝えつづけていること。

会社がいかに環境を大切にし、それに貢献しているかも同時に大切にし、社員にそれを伝えている点も共通していた。

ESG で一歩世界の先をいく企業の一つの注目すべきトレンドとして頷ける。

